

アランマーレ 11 月ホーム戦

秋商高生販売メニュー考案 稲庭うどん使い多彩

秋田市の秋田商業高校(高田屋馨校長)の生徒約210人が、バスケットボール女子Wリーグのアランマーレ秋田の試合を盛り上げようと、11月8、9の両日、秋田市の県立体育館で行われるホームゲームで販売するオリジナルメニューのアイデアを発表した。チームスポンサーである佐藤養助商店(湯沢市)の稲庭う

どんを使ったユニークな商品を考案した。3年生の必修科目「総合実践」の一環。会計・流通経済・情報コースの3コースの生徒が20のグループに分かれ、アランマーレを運営するプレステージ・インターナショナルとともに8月から準備を進めてきた。生徒が各コースで学習した専門的な知識と技術を生かしながら、ターゲットや調理販売の実現可能性も考慮して企画。プレステージ社員は発表会でのプレゼンテーションの仕方、資料の作り方などをアドバイスした。

今月16日、17日には秋田商高で発表会を実施した。生徒たちは、稲庭うどんを使ったスモージーやハンバーガーのほか、若者に人気の麻辣湯に稲庭うどんを入れ、伊勢エビやピーナツなど選手の出身地の食材をトッピングする商品などを発表した。麻辣湯を提案したグループの堀井然さん(3年)は「流行をリサーチしながら、みんなで意見を出し合った。一人一人が役割を持って頑張って考えたので選ばれてくれればうれしい」と話した。

佐藤養助商店の代表として審査した社長室室長の今野弘志さん(47)は生徒の発表を「若者の流行などを取り入れた、われわれにはない発想をたくさん聞くことができた」と評価。プレステージ社員からも「地元を盛り上げようと考えてもらえたのが良かった」との感想が聞かれた。

佐藤養助商店は生徒たちの企画案を検討し、最優秀賞に選んだ商品をホームゲーム会場で販売する予定。(水品千夏)

(令和7年9月24日(水)秋田魁新聞より一部抜粋)